

背景

■まちの記憶の風化・資料の散逸

高津のまちを記憶する古文書や写真を始めとする各種資料が、残念ながら年々地域から消えつつある。それらの散逸する資料を高津区全体の社会的資産と捉え、収集・分析し、各事業において活用できる形で体系的に整理・保存することが必要である。

■全区的な通史の不在、地域資源情報共有のためのコンテンツ作成の必要性

高津区においては、現在のところ全区的な通史や地域資源を体系的に網羅したコンテンツが不在であり、まちの形成史や地域資源についての情報を共有していくための資料を、新たに作成・整備していくことが求められている。

■過去に収集・作成した資料の集積

各事業において、地域資源に関する資料やガイドマップ等が作成されているものの、体系的な整理や目録作成、ネットワーク上での公開が行われていないため、必ずしも活用度が高くない状況が見られる。また、発行から時間が経過し、情報の更新や増刷が必要なものもある。

■地域アイデンティティ醸成に向けた気運の高まり

市民協働による高津区二ヶ領用水400年記念事業（全国円筒分水サミット）の実施や、まちづくり協議会による地元講座「高津学」の開催など、地域資源に対する住民の関心の高まりが見られ、一時的なイベントにとどまらない、地域アイデンティティの形成、それらを共有・活用するための仕組みづくりが求められている。

■2012年に迎える区制40周年～未来を創造するアーカイブ～

1972年4月に川崎市が政令市になり高津区が誕生して以来、2012年に高津区は区制40周年を迎える。年々まちの記憶をとどめる資料や建物が消えゆく中、区制40周年を契機に資料の収集を行い、まちの形成史を共有するための資料を作成することは大きな意義がある。40周年における基礎的な資料収集とまとめ、2014年度の市制90周年における活用、さらには10年後の区制50周年事業の実施につながると考えられる。



アーカイブ ～情報発信から情報共有へ～

アーカイブとは・・・「記録や資料などをひとまとめにして保存すること」や「そのようにしてまとめられた資料群のこと」、さらには「その保存場所や保存機関のこと」を表す。多くの場合、公共性が高い資料（古文書・公文書・文化遺産の映像など）について言う。さらに、収集した資料のデジタル化（デジタルアーカイブの構築）により、ネットワーク上でのデータ共有も可能になり、学校教育や生涯学習など幅広い場面での活用が可能になる。

目指す方向性と年次計画

●目指す方向性

年々地域から消えつつある高津のまちに関する資料（写真・刊行物等）の包括的な収集・保存・活用のあり方を定め、その仕組みづくりをすることにより、高津区全体の社会的資産としてそれらの資料の活用を図る。

コンセプト：「地域の魅力を発見し、継続的に活動を支えるアーカイブの構築」
キーワード：「区民がつながる」「地域への愛着につながる」「未来につながる」

●第3期実行計画における位置付け

本事業は川崎再生フロンティアプラン第3期（2011年度～2013年度）実行計画高津区計画の中で、主要な取組として位置付けられている。

●年度ごとの取組

2010年度 「高津区地域資料に関する現況調査」の実施

古写真を中心とした、資料の現存状況について先行的に調査を実施。写真資料約1,000点をデジタルデータ化。また、基本構想策定に向けた課題を抽出。

2011年度 「高津区ふるさとアーカイブ基本構想」の策定

3回の検討委員会（庁内関係者、市民団体代表者、学識者）とワークショップを開催し、基本構想を策定。並行して、資料収集も開始。

基本構想の骨子

- ①本事業で収集・活用する資料の対象範囲（種別・年代等）
- ②関係部署・機関の役割分担
- ③資料収集・活用の手法
- ④短期的な取組事項の概要
 - ・区制40周年記念事業
 - ・デジタルアーカイブの構築

ワークショップ（案） 「古い写真の謎を解こう」

古写真に写っているものをヒントに、撮影された場所を解明します。
同じアングルで「いま」の風景も撮影し、「むかし」と「いま」を比較できる写真マップを作成します。

2012年度 区制40周年記念誌の発行

区制40周年を記念し、写真等で高津区の過去を振り返り、まちの形成史を共有するための資料（記念誌）を作成（11月末を目途に発行）。ふるさとアーカイブ事業と関連付けたテーマで区制40周年を記念するイベント（シンポジウム形式）や写真展もあわせて開催予定。

2013年度 デジタルアーカイブの構築

デジタルアーカイブ及びWEBサイト（「高津区ふるさとアーカイブ」）を構築し、記念誌及び関連事業をアーカイブ化。

2014年度～ デジタルアーカイブの運用による資料収集と活用

アーカイブWEBサイトの広報により、継続的に資料収集と活用を進める。